



いずみの里



清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

年頭のごあいさつ

— 感謝とともに、一年の歩みを確かめる —

1 新しい年の始まりに寄せて

新年、明けましておめでとうございます。

地域・保護者の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

今年は午年です。馬は、古くから「人とともに歩み、人の暮らしを支えてきた存在」として大切にされてきました。また、馬は前を向いて力強く進むだけでなく、周囲の様子を感じ取りながら、仲間と歩調を合わせる賢さも併せ持っています。

この一年が、子供たち一人一人にとって、自分の力を信じながら、周囲と支え合い、確かな一歩を重ねる年になることを願っています。

地域の皆様、保護者の皆様にとっても、子供たちの成長を身近に感じられる、実り多い一年となりますよう、職員一同、力を合わせて教育活動に当たっていきます。



2 年度のまとめに向かって

さて、学校は新しい年を迎えると同時に、年度末に向けた「まとめの時期」に入ります。

学習面でも生活面でも、この一年で積み重ねてきたことを振り返り、次の学年へとつなげていく大切な時期です。

本校では、4ステージ制で一年を区切り、子供たちの成長を段階的に捉えています。

1月からは「冬の期（感謝のステージ）」です。これは、これまで支えてくれた人や環境に目を向け、自分の成長を確かめながら、次の一歩へ進むための期間です。

3 「感謝のステージ」に込める願い

「感謝のステージ」は、地域の方をお招きする「感謝の会」、在校生が心を込めて準備する「6年生を送る会」、小学校生活の集大成である「卒業証書授与式」といった節目となる行事が続きます。

これらの行事は、単なる「イベント」ではありません。人と人とのつながりの中で自分が育ってきたことに気づき、感謝の気持ちを形にして伝える、大切な学びの場です。



4 感謝の気持ちは「自分の成長への気付き」から

感謝の気持ちを心に保ち、言葉や態度で表すためには、「自分はここまで成長してきた」という肯定的な自覚が欠かせません。

- ・ できなかったことができるようになった
- ・ 友達との関わり方が変わってきた
- ・ 最後までやり抜く力がついてきた

こうした一つ一つの成長に気付くことで、「支えてくれた人がいたから今の自分がある」という思いが、自然と感謝へとつながっていきます。

学校では、子供たちが自分の歩みを振り返り、成長を実感できるよう、日々の声かけや活動を大切にしています。

5 「ありがとう」を言葉で伝えられる関係づくり

感謝の気持ちは、心の中にあるだけでは相手に伝わりません。「ありがとう」と言葉で表すことによって、初めて人と人とのつながりは深まります。そのためには、安心して気持ちを伝え合える関係性が必要です。

友達同士、教師と子供、学校と家庭、学校と地域・・・

それぞれの場面で、思いを言葉にできる温かな雰囲気育てていきたいと考えています。

6 清水小宣言を、改めて大切に

感謝の期を迎え、改めて大切にしたいのが、清水小宣言です。

宣言は、掲げて終わりではなく、一人一人が日々の行動の中で生かしてこそ意味を持ちます。

感謝の期では、「さわやかなあいさつをかわします」を意識して生活します。あいさつは、人と人をつなぐ第一歩です。自分から進んであいさつをすることで、相手の存在を大切に思う気持ちが伝わります。

また、あいさつを交わす中で、子供たちは地域の一員として見守られていることを実感します。

7 地域・家庭とともに歩む学校へ

子供たちの成長は、学校だけで成し遂げられるものではありません。

地域の皆様、保護者の皆様の支えがあってこそ、子供たちは安心して挑戦し、成長することができます。

感謝の期を通して、「ありがとうが行き交う学校」「地域とともに育つ学校」を、子供たちとともに創り上げていきたいと考えています。

8 結びに

一年の締めくくりに向かう今だからこそ、これまでの歩みを大切に、次への希望を育てる時間を重ねてまいります。

本年も、本校の教育活動への変わらぬご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。皆様にとって、この一年が健やかで、笑顔あふれる年となりますことを、心より願っております。

校長 武藤 剛